

委員の
報 目
広

十二時過ぎには、お昼のお弁当を輪になって食べているグループもいました。いい風景。腹がへっては「いくさ」にならぬ。
車イスに乗って仲間のカバンを三・四個足もとに預かっている人、同志の戦果を大いに期待している様子でしたが「？」
子どもたちのもちをいって「頭にくらされたことがある」と語るおじさんや、「絶対ひつき傷ができる」と軍手を

はるか南の方には、時間に
大人も子どもも、男も女も皆すごいすごい。
もろぶたを振りうつすようにまく人、下にいる人たちのすさまじい気迫、ズボンのすねから下は土でまっ白。「アザこなっちゃうかもしれん」と言いながらスソをまくっている人もいる。

午後一時、一斉にもちまきが始まるとグラウンドに土けむりが立つほどでした。
一万三千個のもち投げは、十分ほどで終わりましたが、うまくもちが拾えた人、拾えなかった人、それぞれに楽しいイベントとなりました。



団員たちも、うれしそう

いざ、
もち拾い！
ウオーという歓声と土けむりの中、投げる人三十人対拾う人三千五百人の大合戦の始まり。多くの人が、ケガはしたくないという思いも強く、遠巻きの位置、拾えるのかな？「野球選手のように速くへ投げる専門家がおらんのか」という声も大。中央部では「いくさ」



地元の長老が「これほどの人を見たことがない」と語った「人のなみ」が続くづく...

ヤンスは今日この時とばかり、カメラを肩や首にした写真家も多い。
老若男女入り乱れてのもち大争奪戦は、見ている側にはずいぶん長く感じた。
もち米を栽培した人、もちをついた人、投げた人、拾った人、皆さんお疲れさま、でも本当にすごい光景でした。



姉弟？ ひろったおもちに心はウキウキ！ 掃り道で、思わずバックリ

これは たまげた！



モチ・人・火消しの



消防団員が活動する「火事場」などでは、チームワークと団結心が大変重要で、そういう意味では、目ごろから抜群に息の合う団員たち、話がもち上がるトントン拍子にまとまり「大きく祝おう」ということになりました。
農業を営む団員が多く、「もち米は自分たちで作ろう」ということで、昨年七月の種

まき作業から、共同でもら米づくりを行ってききました。収穫したもち米のうち三十俵を祝い餅にしてまき、地域の人たちに祝ってもらおうということになったものです。
ケタ外れの規模となったもち投げに、室戸方面や高知市から来た人もいて、学校周辺の空き地は車でいっぱい。道路は渋滞といった状況の中、



完成した長岡東部消防分団屯所

一月十九日、長岡東部消防分団（依光分団長十五人）は、屯所落成と消防ポンプ車の購入を祝って、長岡小学校グラウンドでビッグなもち投げを行いました。
もち米三十俵（千八百キロ）、もちにして、一万三千個は、南国市始まって以来最大級の量でした。また、この日集まった人たちの数は、約三千五百人で史上空前の人出となりました。

おもち屋さんもう大変



「まさか」の量のもち米。
数件の祝いもちを一度に請け合い、「大量」と呼ぶ量のもちをついたことは、今までにもあったものの今回ほどの量は初めて。昨年12月に、この話があった時は「まさか」という気持ちだったそうです。
もちつき当日は、小売販売は休み。卸販売部門も全部断って午前三時から作業開始。手伝いの人たちも加わった総勢11人がフル回転し、順調に1万3千個のふくらとした祝いもち、それに大小の鏡もちをつきあげたそうです。
県下最大規模といわれるもち投げ用の祝いもちは、「もろぶた」にして480枚。大役を無事に果たした黒岩さんの喜びも今までにないビッグなものだったでしょう……。